

福岡県立ひびき高等学校 平成25年度 学校自己評価表(定時制)

(計画段階・実施段階)

(17)

学校運営計画(4月)		評価(3月)			
学校運営方針		校訓「自助・自敬・信愛」のもと、単位制・三部制の特性を活かした教育活動をとおり、生徒の個性・能力を伸長し、豊かな感性と創造力を養うとともに、社会の一員としての強い自覚と実践力(「生きる力」)を身に付けた人間性豊かな生徒の育成を目指す。そのために、教師個々の資質・能力「教師力」と学校としての組織的指導力「学校力」の向上に努め、教育活動の充実を図る。特に「ひびき高校」として10年を経過し、本年度は「新生ひびき高校」の初年度として、これまでの教育活動の分析・検証をもとに、改善・充実に積極的に取り組み、学校活性化を図り、生徒・保護者及び地域社会に信頼される学校づくりを推進する。		B	
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標		
昨年度開校10年目を迎え、「学習意欲の向上」、「基本的生活態度(自己管理能力)の涵養」、「自己実現能力の育成」を教育活動の柱として、教科指導の充実や生活指導の徹底、進路指導の充実に加え、単位制三部制の特性を活かしたさまざまな活動に積極的に取り組み、その成果も徐々に現れている。本年度は、教師個々の授業力や生徒指導力等の教師力の向上を図り、学校としての組織的指導力、いわゆる学校力の向上に取り組み、生徒が自信と誇りを持ち、充足感のある学校生活を送り、加えて、生徒一人ひとりの特性に応じた進路実現を目標として、一層の教育活動の充実を目指す。さらに、学校と家庭及び地域社会との連携を強化し、「志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい子どもの育成」に向けての取組を推進し、生徒と保護者、そして地域社会から信頼される学校を目指す。		授業の充実により、生徒の学ぶ意欲の向上と基礎学力の充実に努める。	学習指導研修会や授業評価等により授業改善に努め、「分かる授業」の実施と魅力ある学校設定科目の導入により、生徒の学習意欲を高め、出席率、単位修得率の向上を図るとともに確かな学力の育成に努める。		
		自己管理能力の育成を図るとともに、就学支援体制を強化し、修学意欲の向上を図る。	生徒の規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立、さらに、自主・自律的態度の育成を図るとともに担任、生徒指導部(修学課)、スクールカウンセラー、訪問相談員等との連携を強化し、生徒の修学支援体制を確立し、いじめ撲滅に向け取り組みとともに問題行動や不登校及び中途退学の抑制・防止に努める。		
		キャリア教育の推進と特進クラスの特色化を図り、生徒の希望進路実現を目指す。	キャリア教育を推進し、生徒の自己実現能力の育成を目指すとともに、系統的・計画的指導体制を構築し、進路指導の充実を図る。また、特別進学クラスの指導内容の充実に努める。		
		家庭及び地域・社会との連携を強化するため、学校情報の公開に努める。	特色ある教育活動、学校行事等の学校情報を積極的に発信・公開し、家庭及び地域・社会との連携協力体制の強化を図り、教育活動の活性化を促進する。		
		国際理解教育や環境教育を推進し、国際感覚の涵養と環境問題への意識の高揚を図る。	海外研修等の国際交流事業やESD事業を実施し、環境問題への意識の高揚と異文化理解やコミュニケーション能力の育成を図る。		
		人権教育を推進し、人権意識の高揚と人権尊重の精神を涵養する。	人権教育週間や人権講座を通して生徒の人権感覚や自尊感情を涵養し、いじめや差別のない学校づくりを推進する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務部	教務部	「将来の夢に向かい、学ぶ意欲に溢れた生徒」を育成するために、学習指導およびHR・総学の充実、多様な広報活動による志願者数の増加、連絡・調整機能の向上による校務の円滑化を図る。	B	コーチングの手法等の研修を後期に行ったが、より深化させていく研修が次年度以降必要である。ガイダンス部との十分な協議を重ね、平成27年度の新課程完成年度に向けた時間割マスタの作成を行う。 単位修得率向上のためには、生徒が意欲的に学習に参加し、授業へ出席することが不可欠である。欠席がちな生徒の情報について、講座担当者からHR担任への連絡が不十分な場合が見受けられたので、次年度は、生徒の出席状況等の情報を確実に講座担当者がHR担任に伝えるよう対応を検討する。 後期入試は、受検者が昨年度より増加した。体験入学会への参加者も増加し、中学校に対しての広報活動が効果を上げていた。次年度は広報資料のさらなる充実を図る必要がある。また、入試相談に対応できる教員が現在のところ限られているので、次年度に向けて相談対応ができる教員を育成するための校内研修の充実が必要である。 年間の諸行事の連絡・調整はスムーズにできた。より一層早く正確に作成できるようにする。保護者教師会の活動については、内容や時期を検討し、保護者及び教員の参加率が向上するようにする。	
	教務課	授業力を向上させるとともに、生徒の進路に対応した時間割マスタの作成、また、生徒に学習・進路決定・ルールの意義を理解させることで、単位修得率を向上させる。 HR活動で「ひびき検定」を年3回、「生徒意識調査」を年2回実施し、学習することの大切さを指導する。	B A B		
	入試広報課	学校説明会等の行事の充実や広報資料の内容を検討することで、効果的な広報活動を推進する。 より多くの教員がきめ細かな入試相談を実施することができるよう、年2回入試業務研修会を実施し、入試相談体制の整備・充実を目指す。	A B		
	庶務課	各部との緊密な連絡・調整により円滑な計画と運営に努め、教職員の福利厚生やPTA活動の活性化、および、ネットワークの保守管理と教務支援システムの円滑な活用を図る。 職員の情報セキュリティ意識の向上や教務支援システムの安定化と円滑活用のために研修会を最低年2回実施し、教育の情報化を推進し、事務の効率・迅速化を図る。	A B B		
生徒指導部	生徒指導部	心豊かに逞しく生きる力を育て、自主性と自己責任力の伸長を図る。安全安心を確保し「やすらぎ」ある環境、奉仕・体験活動をとおり「ときめき」のある学習を提供し、豊かな創造性・人間性を育成するとともに、地域の信頼に応える学校を目指す。今年度はさらに飛躍の年1年目として、「教員と生徒・生徒間の円滑な人間関係作り」をテーマに企画を立案する。	B	年間を通しての教職員の協力体制が整い、授業時間中の校内環境は整ってきた。校外指導において生徒の観察の視点や指導すべき点について細部にわたり再確認し、次年度にもつなげていきたい。また、「ひびきプラン」の「きりぎり週間」では、生徒から標語の募集を行うなどの取組で初年度としては職員や生徒からの感想からも一定の効果があったと考えられる。今後は厳選した内容を計画的に実施し、マンネリ化しないよう工夫したい。一方「地域別交流会」については、今後継続して実施するためには、その内容等について再考する必要がある。 教育相談体制については、年次主任を中心として、各担任の協力により年次主導の体制が整いつつある。今後は外部機関との連携による支援がいかに有効であるかを、全職員に向けて発信していかなければならない。「いじめアンケート」については、対応マニュアルを作成し、その対応方法を全職員と共有でき、早期発見早期対応の体制作りができていく。 個別的教育支援計画については来年度から完全実施の方向になり、今まで積み上げてきた体制を維持し、運営側が風通しの良い体制を整えて生徒支援に向け努力したい。	
	生徒指導課	マナーアップによる1日8回の巡視、校外マナー指導(年5回)、生徒指導課校外巡視週間(月1回)を行い、規範意識の高揚と問題行動の抑制防止(前年度比20%減)に努める。 学校行事、生徒会活動の活性化に努め、行事出席率(75%以上)及び部活動加入率(30%以上)の向上を目指す。	B B		
	修学課	生徒情報の共有化と教育相談体制の充実を図り、不登校や長期欠席者、中途退学者の減少を目指す。 訪問相談員、SC、SSWとの情報交換を密にし、担任、年次主任にフィードバックできるよう生徒の修学支援体制の充実を図り、不登校や中途退学の抑制・防止(前年比10%減)を目指す。	A A		
	保健課	保健衛生の保持と環境美化に努め、安全安心な学習環境作りを目指す。 今年度中に個別的教育支援計画完全実施に向け、毎週1回保健課会議をもち、特別支援コーディネーター(養護教諭)を中心として特別支援教育の更なる充実のための組織作りをする。 生徒の美化意識の高揚と校内美化の促進のために、日々の清掃活動における積極的な参加を呼びかけ、毎月1回企画した大掃除(「クリーンアップ ひびき」)を実施する。	B A		
ガイダンス部	ガイダンス部	生徒一人一人が自己の在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択できるように、学校の教育活動全体を通して、計画的・組織的な進路指導を実践し、生徒全員の進路決定を実現させる。	B	諸々の新規取組によって卒業年次生の進路決定率に結びついているが、新入年次からの継続的な取組による学習指導・学習習慣の確立に向けてより具体的な対策を要する。 教師(力の向上)・保護者(への情報提供)・地域(との連携)によるドリームサポートの推進は、それぞれの進路関連事業で一定の成果がみられた。三者の連携強化による研修、情報提供、情報交換活動の重要性を感じた。外部講師を活用することにより、内容の充実・効率化は図られたが、これを教師力・学校力の向上に繋げていくことが求められる。 ひびきプランの取組のなかで、学校全体での活動を見直すには、他分掌・年次との連携が不可欠である。今後はこれを一層前進させ、入学から卒業までの本校独自のシステムの充実を目指す。 新課程移行に伴い受講ガイダンスが円滑に実施できるシステムの充実とともに、これをキャリア発達を促す機会ととらえ、生徒の学習意欲の向上や希望進路の早期確立を目指す。 経済的に困難な生徒のための進学方法に関する情報提供を新入年次より行う。とりわけ、学校内の奨学金だけでなく、外部講師(フィナンシャルプランナー)を効果的に活用し、進学決定率を上げる。また、就職に関しては、卒業年次及び校務運営委員による学校挙げての求人確保に取り組む。 これまで、校外模試をはじめ学習成果の分析が不十分な面もあった。今後は、模試関連企業との連携を強化することにより、分析等を十分に行うなどの取組を徹底することにより継続的な学習意欲の向上を目指す。	
	ガイダンス課	進路目標と受講計画が合致した受講ガイダンスや受講登録を実践するために教員研修の充実を図る(年間4回実施)。 ガイダンス行事とHR・総学での進路学習の関連を示し、年次指導を支援する。 外部の人的資源を活用し、近未来ガイダンスや高大等連携事業等を活性化・効率化する。	B B A		
	進路指導課	特別進学クラスの特徴化を進めるため、各教科担任との連携を図ったSHR等を実施する。	A		
		特別課外と連携し、多くの生徒が参加できる勉強合宿を実施する(昨年より20%増)。 教科主任と連携し、必要な生徒の個別指導を促進する。	B		
		模擬試験の事前事後指導を各年次ごとに実施し、充実させる。 担任を通じて専門学校進学者への正しい情報提供を行いAO・推薦入試の多様化に対応する。	B		
	進路渉外課	就職問題集を学習し、計4回の就職模擬試験を受験できるように担任と連携して指導を行い、基礎学力向上を行う。(全年次対象)	A		
		新規開拓を含め、企業訪問を卒業年次全体の取組として6月に実施する。	B		
		本校独自の面接指導マニュアルの活用より、卒業年次担任の就職指導力向上を図り、外部講師等の外部資源と連携した就職指導を行う。	A		
		新規企業開拓において同窓会・PTAとの連携を継続する。 就職指導員と連携し、就職試験に向け、夏季特別講座や就職希望者登校日において履歴書指導・面接指導等に取り組む。	B B		
	研修部	公開授業(研究授業)による授業研修、授業評価を実施し、授業の充実を図るとともに、校内職員研修を充実し、教師力の向上により教育活動の活性化を推進する。また、各種行事の効果的実施により、生徒の学校への帰属意識の高揚に努める。	B		授業相互参加については、後期に全教員が最低1回は参観するという目標を達成することができた。しかしながら、研究授業への参加についてはその目標を達成することができなかった。一方で、他教科の研究授業への参観は少数であるが増えてきており、次年度は最低1回の参観の目標達成に加えてその質的向上が課題である。他の校内研修についても一定の成果はあったものの調査や他の業務のために参加できない教員が多かったことが課題であり、校内研修への参加体制について関係分掌と協議し、その改善に努めていく。
各分掌との緊密な連携による職員研修(年10回)の実施、及び教務部と連携した研修部主催の学習指導研修会(年2回)の実施によって、指導力向上を図る。		B			
全教員が授業相互参観(年2回)及び、研究授業(年8回)のそれぞれへ年1回の参加を目指し、教科指導力向上と授業充実を図る。 生活体験発表会、芸術鑑賞の実施内容の充実と効果的運営により、生徒の学校への帰属意識の高揚と学習活動への意欲向上を図る。		B A			
図書館の円滑な運営と利用率向上を図るために、広報紙「ライブラリー」を定期的に(月1回)発行する。		A			

新入生年次	規範意識(時間厳守・清掃・礼儀)を高揚させ、基本的な生活習慣の確立・維持を図る。	あらゆる場面で生徒に声かけを行い、礼儀正しい態度を育成する。	A	B	B	タッチパネルの情報掲載担当を決め、毎日データを更新することができた。しかし、未読者に対して丁寧に指導する必要があった。また、年次集会等を定期的を実施することができなかったため、授業へ意欲的に参加し単位修得に向けて、努力するよう生徒へのきめ細かな指導を徹底することができなかった。経済的な問題を抱えた生徒に対して、SSW・訪問相談員・事務室担当者等と継続的連携し、情報を共有して対応することができた。将来の進路目標がまだ決定していないために、授業への出席率が低下し、次年度の時間割作成において苦労している生徒も見受けられる。そのため、年間を見通した受講ガイダンスに関する取組が必要である。1月中旬に「受講ガイダンス日」を設定するなどして、年次全体における指導を行うなどして、きめ細かな対応を検討する必要がある。
	学ぶことの楽しさを体験させ、継続的に学習する態度を育成する。	タッチパネルの活用を100%徹底させ、生徒がスムーズに学校生活を送ることができるようにサポートしていく。	B			
	進路について考えさせ、その実現に向け、何をすべきか助言・支援をしていく。	遅刻・早退・欠席を減少させ、授業出席率の向上(80%以上)と単位取得率の向上(取得率85%以上)を図る。	B			
		相互授業参観等に積極的に参加し、わかりやすい授業に向けて工夫・改善していく。	B			
在校生年次Ⅰ・Ⅱ部	規範意識(時間厳守・清掃・礼儀)を高め、基本的な生活習慣の確立・維持を図る。	修学課、訪問相談員、S・C等との緊密な連携により、修学支援体制を強化し、不登校の防止・抑止や中途退学者数を減少(前年比20%減)させる。	B	B	B	5月に保護者面談を実施することで、保護者との信頼関係を築くことができ、保護者から担任への相談件数が増えたり、不登校ぎみの生徒への早めの対応ができた。さらに効果のあるものにするために、面談内容について事前・事後の検討を年次や各分掌と連携するなどして実施していく必要がある。 ガイダンス部との連携により、高大等連携事業やインターシップなど進路目標実現のための働きかけが継続的に行われ、成果を上げている。その一方で、外部模試や冬季特別講座などへ参加する生徒が減少している。次年度は、HR担任が、希望進路実現に向けて、生徒へ個別に対応するなどの積極的な取組を行うなど、関連分掌との連携を強化する。 生徒間のトラブルが原因で深刻な状況に陥った生徒もあり、メールやラインの使い方や生徒同士や家族とのコミュニケーションの在り方について学ぶ機会をつくりたい。
	授業を大切に、継続的に学習する態度を維持し、確実に単位修得ができるように指導する。	1週間欠席した生徒には速やかに家庭訪問を実施し、家庭との連携強化、生徒理解に努め、早期の対応を図る。	B			
	進路目標をより明確化し、進路実現のために今、何をしなければならぬか助言・支援をする。	年次通信を定期的(年8回)に発行や年1回以上の保護者面談を通して、家庭との連携強化を図る。	A			
		遅刻・早退・欠席の減少させ、授業出席率の向上(80%)と単位取得率の向上(取得率85%)を図る。	C			
在校生年次Ⅲ部	職員間の連絡を密にし、生徒の状況を共通理解を図り、年次全員が充実した学校生活を過ごせるように指導する。	個人面談週間を実施(年2回)することなどで、生徒を理解し、今後の生活への助言・支援を図る。	B	A	B	生徒の状況に関して、担任より報告を受け、SSWと連携するなどして対応し、関係分掌及び管理職と対応を協議することができた。また、年次会議を定期的実施し、年次での情報共有はできていた。次年度も継続していきたい。ただし、不登校傾向の生徒への家庭訪問等、生徒の状況把握が十分にできていなかったケースもあり、検証する必要がある。また、欠課時数の多い生徒に対して個別指導を行うことができ、昨年度よりは出席率が向上したものの、十分とは言えずさらなる指導の工夫が必要である。また、将来の希望進路が定まっていない生徒が多数いるため、ガイダンス部と連携し、指導方法の改善が必要である。
	単位修得率および出席率向上のために、家庭との連携を図るとともにHRでの指導を徹底する。	特進クラス生徒への面談・個別指導により、進学指導の充実を図る。	A			
	生徒個人個人が進路目標を明確にし、進路目標実現ができる支援をする。	修学課、訪問相談員、S・SSW等との緊密な連携により、修学支援体制を強化し、不登校の防止に努め、中途退学者数を減少(前年比25%減)させる。	A			
		年次職員全員で、週一回はミーティングを行うことにより、迅速かつ率直な情報交換をする。	A			
卒業生年次	生徒の個性や能力・適性等に応じたキャリア教育により生徒の自己実現能力の育成とそれぞれの希望進路の実現を目指す。	欠席した場合は家庭に連絡し、欠席が3日以上続いた生徒に対して家庭訪問を実施し、出席率の向上(85%以上)を図る。	B	B	B	次年度は、年度当初の進路希望調査によって、生徒の進路希望を的確に把握し、進路実現への意識向上に努める。また、生徒一人ひとりに、卒業年次であることを自覚させ、卒業へ向けての意欲を持たせる。具体的には、出席や単位修得を確実にさせることはもちろんであるが、前期で卒業単位数不足となっても、最後まで諦めることなく、増加単位等によって卒業を目指させていきたい。また、下級生の模範となるべき立場であることを意識させ、規範意識をもって行動するよう指導したい。進路については、7月の保護者会で保護者と情報交換し、進学の場合の経済的な面での計画を確実にさせる。就職については、ガイダンス部と連携して、生徒の職場開拓のための企業訪問に取り組みたい。また早期からの生徒への進路別指導や個別の面談指導をとって就職への意識を持たせたい。
	年次部職員全員の協働体制により生徒の就学意欲の向上を図り、確実な単位修得や進路に応じた教科指導を徹底する。	HRにおいて、生徒個人個人に出席状況を確認させ、授業に参加することの意義を認識させる。	B			
	家庭との連携を強化しながら、生徒との信頼関係を構築し、社会人としてのルールやマナーの徹底を図る。	HR・総合的な学習の時間・個人面談を通して、生徒がそれぞれの夢を描ける情報提供を年次の教員全体で行い、具体的な進路目標を設定させる。	B			
		5月に保護者面談をおこない年次通信を年間9回発行することで、希望進路の実現に向けて家庭との連携強化を図る。	A			
	進路説明会の実施や年6回の年次通信の発行、三者面談等を行い、生徒・保護者に対し、進路情報を提供するとともに、進路目標達成の意欲向上を目指す。	A	B	B		
	個人面談月間(4月と10月)や、外部講師を招いた、進路別研究(前期6回・後期4回)を実施し、自己実現能力の育成を図り、希望進路の実現(95%)を目指す。	B				
	早期に面談や家庭訪問を行い、単位取得率の向上(取得率85%)を図る。	B	B	B		
	長期休業中の特別講座受講を督促し(出席率90%)、勉強合宿参加を促進し、学力向上と年次チーム力向上を図る。	B				
	個人面談や家庭との連携強化により、進路実現意欲や、社会人としての意識の向上を図る。	A	B	B		
	校外清掃・ボランティア活動への参加を推奨し、奉仕的精神の涵養に努める。	B				